

## 生活支援コーディネーターニュース

発行 盛岡市社会福祉協議会地域福祉課 第1層生活支援コーディネーター  
発行日 2021年3月5日



みなさんの「自分らしい暮らし」とはどのような暮らし方でしょうか。  
わたしたち生活支援コーディネーターは、高齢になっても住み慣れたまちで、いきいきとした生活を続けるために、さまざまな人たちを【つなぎ】、【つくる】活動をしています。  
今回は、市内全域および3地区の活動を紹介します。



居場所づくり

## 【市内全域】 広がれ！マスクの輪！みんなのマスクプロジェクト

盛岡市社会福祉協議会では、高齢者サロン活動の再開支援として、「広がれ！マスクの輪！みんなのマスクプロジェクト」を実施しました。高齢者が安心してサロン活動に参加できるよう、布製マスク1,164枚を住民主体のプロジェクトチームで作成し、お届けしました。

## 集める



企業・団体・介護保険事業所・住民の方から、38件のマスク材料寄付がありました。

## 作る



市内9か所でマスクづくり講習会を開催。約170名の市民ボランティアが参加しました。

## つながる



まとめのフォーラムを開催し、参加した皆で、このプロジェクトを振り返りました。

## 届ける



第2層生活支援コーディネーターがマスクを必要とするサロンにお届けしました。

いつもの、つながりへ～生活支援コーディネーターから

それぞれが出来ることや得意なことをつなげ、このプロジェクトを進めることができました。新しく生まれた、さまざまな人たちとの「つながり」を一時的なものにせず、ふだんの暮らしに活かせるよう、サポートを続けていきたいと思っています。

盛岡市社会福祉協議会 第1層生活支援コーディネーター 佐々木 裕美





## 【大慈寺地区】 みんなのためになる居場所づくり

### ■ 同じ釜の飯を食う！？

令和元年9月6日、「大慈寺地区の居場所づくり」についての話し合いが行われました。はじめは、協議体\*1（話し合いの場）メンバーの「かまどのある古民家」にて、「かまどで炊いたごはん」と汁物で食事をする集まりから始まりました。



\*1協議体：「地域にあったらいいな、こんな活動」などをテーマに、地域住民や民間企業、団体、施設など多様な人が自由に話し合う場を指します

### ■ コロナ禍でも「集まる」工夫を凝らして

令和2年1月9日から大慈寺老人福祉センターで、「住民支え合い活動」についての話し合いを1か月に1回開催しました。緊急事態宣言により活動は中止しましたが、解除後は協議体メンバーから開催希望があり、感染症対策を講じた上で、話し合いを再開しました。

協議体メンバーから「みんなのためになる集まり」を開催して、住民のなじみの関係づくりから始めたほうが良いのではないかと意見が出され、参加者の合意が得られました。

6月18日、「第1回ふれあい処大慈寺」を開催しました。開催にあたっては、市の指導のもと感染症対策を講じ、参加者には、「当日の体調・体温・手指消毒・マスク着用・参加者の名簿作成」に協力いただきました。

### ■ 目指すは、みんなのためになる居場所づくり



これまでの「ふれあい処大慈寺」では、協議体メンバーによる「健康生活について」「ヨガ療法の講話と実践」「手作りフェイスシールドの作成」などを行いました。鉤屋町・茶畑・神子田・南大通りの住民の皆さんが参加しました。

12月24日には、協議体メンバーとこれまでの振り返りと今後の活動について話し合いを行っています。

皆さんの要望を受け開催した「地域包括支援センター出前講座」

#### 住民の皆さんと、ともに～生活支援コーディネーターから

チラシ作成や配布などを協議体メンバーと協力し、毎月開催しています。皆さんの熱意に支えられながら、今後もお手伝いをしていきたいと思っております。

五月園地域包括支援センター第2層生活支援コーディネーター 菊池 誠子







## 【上永井地区】 地域で取り組むウォーキングサロン

### ■ はじまりは、地域ケア会議から

永井地区では、2019年度から「地域で取り組む健康づくり」をテーマに地域ケア会議を開催し、地域活動（サロン等）を行っています。

「健康であるためには他者との交流が大事。」「サロンの参加者が増えない。」「活動の内容をもっと充実させたい。」等の意見や「小物づくりや、講話もいいけど体を動かしたいよね」「永井地区には大きな運動公園がある、スポーツに関連した取り組みをしたい」という声から、上永井公民館や上永井友愛クラブ（老人クラブ）、民生児童委員さんにご協力いただき参加者を募り「ウォーキングの会」を開催することになりました。



「ウォーキングの会」のみなさん

### ■ 民間企業も巻き込んで



第1回目は、2020年6月30日に開催。上永井公民館に集合し、準備体操と地域講話を開催してくれる企業さんの協力で「ただしい歩き方指導」を受け、水分をもって参加者14名でウォーキングコースを歩き始めました。岩手山が見える川沿いは心癒され、コース内にあるキャラボクの木をさがし、南公園では休息・水分補給をしながらの交流もありました。

参加者のなかには、地域内の施設の方もいて、地域の方々と触れ合うきっかけにもなりました。

ウォーキングサロンは継続開催の希望もありましたが、現在は活動を停止しています。次年度はどんな形で継続開催ができるか話し合いをしていきたいと考えています。



### 地域をつなぐ～生活支援コーディネーターから

私の役割は、地域の方々と、地域にある資源、協力してくれる方々を上手くつなげる事だと思っています。地域の方々の「こんなことをしてみたい」「こんな活動出来たらな」を形にする支援をし、地域が丸ごと健康になるそんなお手伝いを続けていきたいです。



飯岡・永井地域包括支援センター第2層生活支援コーディネーター 尾形 京子



話し合い

## 【米内地区】 地区全体が楽しく共に助け合う仕組みづくり

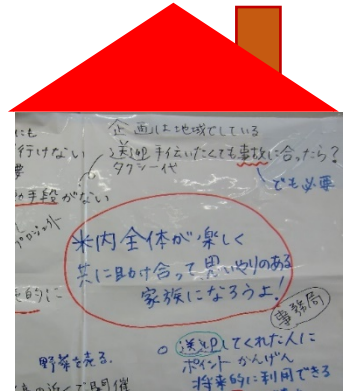
### ■きっかけ

令和元年10月9日、『米内版福祉人材バンクによる高齢者の生活支援の仕組みを考えよう』というテーマで、米内地区福祉懇談会（盛岡市社会福祉協議会主催）が開催されました。その際に今後も協力いただける方を募り、毎月話し合いを重ねています。

### ■協議体（話し合いの場）スタート！！

メンバーは、住民・町内会長・民生委員・医師・介護支援専門員（ケアマネジャー）・PTAなどです。参加者の負担にならないように、協力者打ち合わせ会としてスタートしました。

この会では『米内全体が楽しく共に助け合って思いやりのある家族になろうよ♪』というテーマに向かっています。また、参加者の立ち位置を、現時点では支え合い活動の“実働部隊”でも“脳＝ブレイン”としてもよいととらえています。



話し合いを「見える化」しています

### ■ニーズとシーズ

地域では『今はまだ大丈夫だけど』『ずっとここで暮らして行けるか心配』といった声もあります。話し合いの中では『実際何に困っているのかを聞いてみよう』から、事業対象者・要支援者の



生活支援ニーズを拾い出し、『すでにさりげない支え合いの仕組みがあるのかもしれないよね、聞いてみよう』から民生児童委員や町内会長に聞き取りするといった視点を大事にしています。情報収集や話し合いの積み重ねで、具体的なデータを得て、より深い検討につながってきました。

コロナ禍の今だからできることを、ひとつひとつ丁寧にみなさんと展開していきたいと思っています。

#### つむぐ～生活支援コーディネーターから

この会での話し合いを続けていると、少しずつ地域のことを知ることにつながっていると感じています。具体的な活動はこれからですが、皆さんと一緒に、話し合いや活動を続けて、今あるものも大切に、支え合い活動をサポートしていきたいと思っています。



浅岸和敬荘地域包括支援センター第2層生活支援コーディネーター 佐々木 孝